

ベンジャミン・フランクリン『貧しいリチャードの暦』のことわざめぐり (4)
～1743-1747 年版『貧しいリチャードの暦』のことわざ分析～

林 幸子

1. はじめに

「ベンジャミン・フランクリン『貧しいリチャードの暦』のことわざめぐり」と題した連載も本論で第4弾となる。ことわざの宝庫ともいわれ 26 年間続いた Benjamin Franklin (1706-1790) 作 *Poor Richard's Almanack* (『貧しいリチャードの暦』) に関して、前稿までに最初の 10 年間 (1733～1742) の分析を行った。その結果暦の中に 350 余りのことわざが確認でき、そのうち 200 近くが英語のことわざ辞典類に掲載され後世でもことわざとして認識されていることが示された。また『貧しいリチャードの暦』以前の文献に登場していることわざも 100 含まれ、フランクリンがそのいくつかを、言葉の無駄の削減やイメージの具体化、anti-proverb(反意ことわざ)の利用といったリメイク手法を用い、独特の娯楽性豊かなものに作り変えていることも確認できた。¹

前稿の続きとして、本論では 1743 年以降の『貧しいリチャードの暦』を対象とするが、ここで注目すべきは、1748 年以降タイトルが *Poor Richard* から *Poor Richard Improved* に変更されることである。どのように“Improved”すなわち「改良されている」のかの詳細は後日に委ねるとして、一見してページ数が大幅に増え、頁の構成や文章の内容が変化し、ことわざの掲載が減少していることがわかる。² つまり 26 年に及ぶ『貧しいリチャードの暦』の中で、1747 年版が、「暦の空白をことわざで埋める」というフランクリンの意図を反映する言わば区切りの暦だということになる。そこで本論では、まず 1743 年から区切りの 1747 年までを対象とし、これまで同様すべてのことわざを取り出し、前稿迄の 10 年間と合わせて 15 年分のことわざの傾向や特徴を考察する。

さらに 1747 年版に関して特筆すべき点がもう一点ある。それは毎年頭の「読者へのメッセージ」の中で、月ごとの暦の初めに出てくる「冒頭の詩」にフランクリンが初めて触れ、かなりの部分が他の作家からの借用だとおべていることである。³ 「冒頭の詩」については『貧しいリチャードの暦』を論じた(紹介した)文献の中でも全くと言っていいほど言及されていないため、ことわざ研究との関連は不明だが、本論では補足として「冒頭の詩」の出典に関しても可能な限り確認を試みる。

原本としては、これまで同様現在読者が入手可能な最もオリジナルの内容に近い *The*

Papers of Benjamin Franklin を利用する。記載方針も前稿に準じ、各年暦の冒頭にある「読者へのメッセージ」の要約を付した上で、月ごとにことわざをすべて抽出する。ことわざの英文の綴りは原本のままで、日本語で対応することわざがある場合はそれを「」で、無い場合は筆者の和訳を（）で示す。また、そのことわざが英語のことわざ辞典類に掲載されている場合は辞典の略語を記し、必要に応じて初出文献や年代などの情報を加える。利用する英語のことわざ辞典類は以下の3冊である。

- ・ Mieder, Wolfgang, ed. *A Dictionary of American Proverbs*. Oxford UP, 1992. (*DAP*)
- ・ Wilson, F.P., ed. *Oxford Dictionary of English Proverbs 3rd Edition*. Oxford UP, 1970. (*ODEP*)
- ・ Speake, J. and John Simpson, eds. *Oxford Dictionary of Proverbs 6th Edition*. Oxford UP, 2015. (*ODP*)

日本語のことわざとの対応や和訳の参考には以下の辞典類を利用する。和訳が掲載されている場合は辞典類の略語を記し和訳を（）で記す。さらに参考として日本のことわざが掲載されている場合は「」で記す。

- ・ 大塚高信・高瀬省三共編『英語諺辞典』（三省堂、1976）（略：大塚）
- ・ 澤田治美監訳『オックスフォード英語ことわざ・名言辞典』（柊風舎、2017）。
（*ODP*の翻訳である。略：澤田）
- ・ 三省堂編『新明解 故事ことわざ辞典』（2016）（略：三省堂）
- ・ 時田昌瑞編『岩波ことわざ辞典』（岩波書店、2016）（略：時田）

また、筆者の和訳が不正確な可能性がある場合は「和訳未確定」、上記のどの辞典類にもことわざが掲載されていない場合は「辞典類掲載なし」、『貧しいリチャードの暦』が初出であるなどの言及がある場合は、「『貧しいリチャードの暦』の記載あり」と記す。さらに、辞典類の記載事項に誤りや不正確な点がある場合は*で補足する。便宜上作品中に出てきた順にことわざに番号を付す。

尚、毎月の「冒頭の詩」の出典に関しては最後にまとめて言及する。

2. 1743年版のことわざ一覧

<読者へのメッセージの要約>

- ・ 地元産のブドウを使った葡萄酒づくりの方法を説明。

<1月のカレンダーから>

- (1) How few there are who have courage enough to own their Faults, or resolution enough to mend them!

(自分の過ちを認める勇気がある人も、それを修正する決意がある人も見当たらない)

DAP: 掲載のみ。情報なし。

<2月のカレンダーから>

(2) Ill Company is like a dog who dirties those most, that he loves best.

(悪い仲間は犬のようだ。一番愛しているものを一番困らせる) 辞典類掲載なし。

<3月のカレンダーから>

(3) In prosperous fortunes be modest and wise.

(繁栄する運命にあるときは謙虚で賢明であれ) 辞典類掲載なし。

(4) The greatest may fall, and the lowest may rise:

(最も偉大な者が倒れ、最も弱い者が立ち上がることもある) 辞典類掲載なし。

(5) Le sage entend a demi mot. (フランス語)

“The wise man knows how to take a hint”

(賢者は気を利かせる方法を知っている) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(6) Sorrow is dry.

(悲しみは乾いている) 和訳未確定。

ODEP: “Sorrow is always dry” で掲載。初出 *K. Johan* (Bale,1548)。

大塚: (悲しみにくれる人はのどが渴く) とあるが正しいか不明。

*筆者は本当に悲しい時には涙も出ない、という意味ではないかと推察するが定かではない。

<4月のカレンダーから>

(7) She who attacks another's Honour Draws every living Thing upon her.

(他者の名誉をきずつける者は、すべての生き物を敵にする) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(8) when you stretch your Lungs, That all your Neighbours too have Tongues;

(あなたが大声を出しているときには、隣人もまたしゃべっている) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(9) One Slander fifty will beget.

(一つの中傷が五十の中傷を生む) 辞典類掲載なし。

(10) The World with Interest pays the Debt.

(世間は利子付きで負債を返す) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(11) he'll cheat 'ithout scruple, who can without fear.

(恐れを知らぬ者は、ためらわず騙す) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<5月のカレンダーから>

(12) Content and Riches seldom meet together.

(中身と富は伴わない) 辞典類掲載なし。

(13) The meanest Bee hath, and will use, a sting.

(一番力がない蜂が針を持ちそれを使う) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<6月のカレンダーから>

(14) The church, the state, and the poor, are 3 daughters which we should maintain, but not portion off.

(教会、国家、貧しい人々は切り離せない大事な3人娘) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(15) achwyno heb achos; gwneler achos iddo. (ウエールズ語)

“Let him who complains without cause, be given cause to complain”

(理由なく不平を言う者には、不平を言う理由を与えよ) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<7月のカレンダーから>

(16) Borgen macht sorgen. (ドイツ語)

“He that goes borrowing, goes sorrowing”

(借金は悲しみを生む)

DAP: 初出 *Reliquiae Antiquae* (1470)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 掲載のみ。

ODP: “He that goes a-borrowing goes a-sorrowing” で掲載。初出 *DAP* に同じ。

大塚: “He that goes a-borrowing goes a-sorrowing” の変化形として掲載。

(17) Let all Men know thee, but no man know thee thoroughly.

(あなたのことはすべての人に知ってもらいなさい。ただし完全ではなく)

和訳未確定。辞典類掲載なし。

(18) Men freely ford that see the shallows.

(人は浅瀬なら気楽に渡る) 辞典類掲載なし。

(19) cunning sans wisdom is nothing worth

(知恵のない狡猾さは価値がない) 辞典類掲載なし。

<8月のカレンダーから>

(20) noddo duw, ry noddir. (ウエールズ語)

“What will be protected by God will be protected completely”

(神に守られるものは全てを守られる) 辞典類掲載なし。

(21) Na funno i hûn. Na wnaid i ûn. (ウエールズ語)

“Let no man do to another what he would not wish for himself”

(されたくないことはするな)「己の欲せざる所は人に施す勿」

英語辞典類には上記英文の掲載無し。

DAP: “Do unto others as would have them do unto you”で掲載。

ODEP: “Do as you would be done by”で掲載。

ODP: 同上。初出 *Anglo-Saxons* (N. R. Ker, 1100)。

大塚：同上。参考「己の欲する所ひとに施せ」

三省堂：「己の欲せざる所は人に施す勿」で掲載あり。出典『論語』。該当する英語ことわざとして “Do as you would be done to” を掲載。

<9月のカレンダーから>

(22) The sleeping Fox catches no poultry.

(寝ている狐に鶏は捕まえられず)

DAP: 初出 *Dictionary of French and English Tongues* (Cotgrave, 1611)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: “The sleepy fox has seldom feathered breakfast”で掲載。初出同上。

Franklin の 1758 年の英文記載あり。<誤>⁴

大塚：上記両方の英文記載あり。参考「朝寝八石の損」。

三省堂：「朝寝八石の損」の掲載あり。英文として “He that lies long in bed, his estate feels it” 記載。

<10月のカレンダーから>

(23) If you'd be wealthy, think of saving, more than of getting.

(裕福になりたいなら、儲けることより貯めること)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1743)。

(24) Tugend bestehet wen alles vergehet. (ドイツ語)

“Virtue stays when all else goes”

(すべて去って徳残る) 辞典類記載なし。

<11月のカレンダー>

(25) Con todo el Mundo Guerra, Y Paz con Ingalatierra. (スペイン語)

“Though all the world's at war, there's peace with England”

(世界中で戦争をしても英国は平和) 和訳未確定。

ODEP: 初出 *Spanish Proverbs* (Howell, 1659)。

大塚：スペイン語の英訳として記載。

<12月のカレンダー>

(26) Experience keeps a dear school, yet Fools will learn in no other.

(経験は素晴らしい学びだが、愚か者はそれに頼る) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1743)。

ODEP: 初出 *Way to Wealth* (Franklin, 1758)。<誤>

ODP: 初出『貧しいリチャードの暦』。

大塚: 和訳が(経験は授業料の高い学校を経営している。しかし馬鹿者どもは他の学校では学ばない)となっているが、適訳ではない。

(27) Felix quem faciunt aliena pericula cautum. (ラテン語)

“Happy is he whom others’ experiences make cautious”

(他人の経験によって思慮深くなる者は幸いなり) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

3. 1744年版のことわざ一覧

<読者へのメッセージの要約>

- ・ 商売敵が暦の中で、1744年4月1日に皆既日食が起こると予言しているが、予言を信じた読者をエイプリルフールだと言って騙そうとしていると批判。自分はそんな嘘はつかず、惑星や月の動きで正確に暦を書いていることを自慢している。
- ・ 読者へのメッセージに続く「田舎の男」と題した詩で、穏やかな生活を望んでいる様が詠われている。この詩は *Ode on Solitude* (Alexander Pope, 1700)の一部で、タイトルを *The COUNTRY MAN.*としている。

<1月のカレンダー>

(1) He that drinks his Cyder alone, let him catch his Horse alone.

(一人でサイダーを飲む者は、一人で馬を捕まえねばならぬ) 辞典類掲載なし。

(2) Who is strong? He that can conquer his bad Habits. Who is rich? He that rejoices in his Portion.

(強者は己の悪癖を克服し、富む者は己の分け前に満足する) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<2月のカレンダー>

(3) He that has not got a Wife, is not yet a complete Man.

(嫁とらねば男半人前)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

<3月のカレンダー>

- (4) What you would seem to be, be really.

(見える通りでありなさい) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

- (5) If you'd lose a troublesome Visitor, lend him Money.

(厄介払いしたければ金を貸せ) 辞典類記載なし。

* 上記の表現は掲載無しであるが、“Lend your money and lose your friend”など、lend と lose を組み合わせたことわざは辞典類に掲載されている。

- (6) Tart Words make no Friends:

(辛辣な言葉では友はできない) 辞典類掲載なし。

- (7) a spoonful of honey will catch more flies than Gallon of Vinegar

(酢よりも蜂蜜のほうが蠅をたくさん捕まえる：澤田訳)

DAP: “honey catches more flies than Vinegar”の変化形として掲載。

初出：*Common Place of Italian Proverbs* (Torriano, 1666)。

『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出：*Vie de Francis de Sales* (Francis de Sales, 1624)。

『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODP: 同上。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

大塚：“More flies are taken wit a drop of honey than a turn of vinegar”の変化形として掲載。

<4月のカレンダー>

- (8) Make haste slowly.

(ゆっくり急げ：澤田訳) 「急がば回れ」

DAP: 初出 *Troilus and Criseyde* (Chaucer, 1374) 『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

大塚：14世紀後半初出。参考「急がば回れ」。

三省堂：「急がば回れ」の項に上記英文記載。

時田：「急がば回れ」の項に『雲玉和歌集』の記載あり。

* 現在では「急がば回れ」の英訳として“Haste makes waste”が用いられることが多いが、日本語の「急がば回れ」のイメージには“Make haste slowly”のほうがぴったり

していて面白いように感じる。

(9) Dine with little, sup with less:

(晩餐は控えめに、夜食はもっと控えめに)

大塚：(午餐は小食にし、夕食はもっと小食にせよ。) 参考「小食は長生きのしるし」。

三省堂：「小食は長生きのしるし」の項あり。英文なし。

(10) Industry, Perseverance, and Frugality, make Fortune yield.

(勤勉、忍耐、儉約が幸運を生む)

DAP: “Industry is fortune’s right hand, and frugality her left”で掲載。

初出 *Philosophical Rudiments Concerning Government and Society* (Hobbes, 1651)。

ODEP: 同上。

大塚：上記 DAP の英文の変化形として記載。

<5月のカレンダー>

(11) One with his Poverty is rich, and one with all his Wealth is poor.

(己の貧しさを知る者は豊かであり、富のみに生きる者は貧しい) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(12) Prayers and Provender hinder no Journey.

(祈りと飼料は旅の友) 和訳未確定。

DAP: 初出 *Dictionarie in Spanish and English* (Minshue, 1599)。

『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

大塚：(祈りとかいばは旅の邪魔にはならぬ)

<6月のカレンダー>

(13) Hear Reason, or she’ll make you feel her.

(道理に耳を傾けよ、さもなくば道理に従わされる)

DAP: 掲載のみ。

大塚：“Hearken to reason or she will be heard” (道理に従え、そうでないと道理はあくまでも服従をせまるであろう) の変化形として記載。

(14) Give me yesterday’s Bread, this Day’s Flesh, and last Year’s Cyder.

(昨日のパン、今日の肉、去年のサイダーが最高) 和訳未確定。

DAP: 掲載のみ。

大塚：“Yesterday’s bread, and this day’s flesh, wine of the year past bring health” の変化

形として掲載。

<7月のカレンダー>

(15) God heals, and the Doctor takes the Fees.

(神が直し医者が儲ける) 既出：1735年(40)

(16) Sloth (like Rust) consumes faster than Labour wears.

(怠惰は錆の如く、労働より早く人を消耗させる)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

ODEP: 初出 Franklin (1758)。<誤>

大塚：(怠惰はさびと同様で、労働が肉体を擦り減らすのよりも早く心身を消耗する)

(17) the used Key is always bright.

(使っている鍵は光輝く)「使っている鍬は光る」

DAP: 初出 *Kitt Hath Last Key* (ed. Collier, 1561)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。Franklin (1758)。<誤>

大塚：(使う鍵は錆びぬ)

三省堂：「使っている鍬は光る」の項あり。

* 英語圏では鍵で、日本語が鍬なのは面白い。

(18) Light Gains heavy Purses.

「塵も積もれば山となる」

DAP: “Light gains make a heavy purse” で掲載。初出 *Dialogue of Proverbs* (Heywood, 1546)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

大塚：「塵も積もれば山となる」

三省堂：「塵も積もれば山となる」の項あり。英文として “Littke and often fills the purse” 記載。

時田：「塵も積もれば山となる」の項あり。出典 仏書『大智度論』。

<8月のカレンダー>

(19) Where there's no Law, there's no Bread.

(法のないところ、パンもなし) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

(20) As Pride increases, Fortune declines.

(誇りが増せば幸運が逃げる) 辞典類掲載なし。

<9月のカレンダー>

(21) Drive thy Business, or it will drive thee.

(仕事を追っても、仕事に追われるな) 既出：1738年(23)の変化形。

(22) A full Belly is the Mother of all Evil.

(満腹は悪徳の母)

ODEP: “When the belly is full, the mind is among the maids”の掲載あり。

大塚：上記 *ODEP* の英文の説明として、「満腹すると女色を思うの意」であるとし、
変化形として “A full belly brings forth every evil” をあげている。

(23) The same man cannot be both Friend and Flatterer.

(友はお世辞を言わない) 和訳未確定。

DAP: “If he’s your flatterer, he can’t be your friend”で掲載。

初出：『貧しいリチャードの暦』(1744)。

大塚：“I cannot be your friend and your flatterer”の変化形として掲載。

(友人であり同時におべっか使いであることはできぬ)

(24) He who multiplies Riches multiplies Cares.

(富が増えれば心配も増える)

DAP: “Riches and cares are inseparable”で掲載。

初出 *Dicta Sapientum* (Erasumus, 1526)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: “Riches bring care and fears”で掲載。初出同上。

大塚：“Riches bring care and fears”で掲載。(富は心配と恐れをもたらす)

(25) An old Man in a House is a good Sign.

(家に年寄りが良い印) 「年寄り家の宝」

DAP: 初出 *Select Italian Proverbs* (Torriano, 1642)。

ODEP: 初出同上。

大塚：(家に老人がいることはその家が幸せであることの印である)

「年寄り家の宝」

三省堂：「年寄り家の宝」の項あり。英語として上記英文を掲載。

<10月のカレンダー>

(26) Those who are fear’d, are hated.

(恐れられる者は嫌われる) 和訳未確定。 辞典類掲載なし。

(27) The Things which hurt, instruct.

(傷ついたことに学べ) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

(28) The Eye of a Master, will do more Work than his Hand.

(主人の目はその手よりもよく働く)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

ODEP: 初出『貧しいリチャードの暦』1758。 <誤>

ODP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1744)。

大塚: 掲載あり。主人は両手を動かすより目を光らせていればよけいに仕事ははかど
るという意味。

(29) A soft Tongue may strike hard.

(優しい言葉がときに心に突き刺さる) 辞典類掲載なし。

<11月のカレンダー>

(30) If you'd be lov'd, make yourself amiable.

(愛されたいなら愛想よく)

DAP: 掲載のみ。

(31) A true Friend is the best Possession.

(真の友こそ至宝)

DAP: “ True friends are like diamonds, precious and rare ” で掲載。

<12月のカレンダー>

(32) He's most in Debt that lingers out the Day.

(ぐうたらな毎日借金まみれ) 和訳未確定。 辞典類掲載なし。

(33) Who dies betimes has less and less to pay.

(早死には支払いが少ない) 和訳未確定。 辞典類掲載なし。

4. 1745年版『貧しいリチャードの暦』のことわざ一覧

<読者へのメッセージの要約>

- ・恒星と惑星の違いの説明。
- ・金星、火星、木星などの特徴と月との位置関係によって見分けがつくこと。

- ・ 13 年間の暦の愛読に感謝の言葉。
- ・ *Essay on Man, Epistle II* (Alexander Pope, 1734) の詩を引用。

< 1 月のカレンダー >

- (1) a small Leak will sink a great Ship.

(小さな亀裂が大船を沈める)

DAP: 初出 *Three Divine Sisters* (T. Adams, 1616)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 同上。

ODP: “little leaks sink the ship”で掲載。その他同上。

大塚: “A small leak will sink a great ship”で掲載。「小隙舟を沈む」。

三省堂: 「積羽舟を沈む」。出典『戦国策』。

- (2) Wars bring scars.

(戦争は傷跡を残す)

DAP: 初出 *Paroemiologia* (Clarke, 1639)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

大塚: (戦争は傷跡をもたらす)

- (3) A light purse is a heavy Curse.

(軽い財布は重い呪い)

DAP: 初出 *Gnomologia* (Barclay, 1514)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

* “A light purse makes a heavy heart”の変化形か。

- (4) As often as we do good, we sacrifice.

(善行は犠牲を伴う)

DAP: 掲載のみ。

< 2 月のカレンダー >

- (5) It's common for Men to give 6 pretended Reasons instead of one real one.

(言い訳は見せかけ 6 つで本当は 1 つ) 辞典類掲載なし。

< 3 月のカレンダー >

- (6) *Vanity* backbites more than *Malice*.

(悪意より虚栄心が陰口を生む)

DAP: 初出 『貧しいリチャードの暦』(1745)。

(7) He's a Fool that cannot conceal his Wisdom.

(自分の知恵を隠せない愚か者) 辞典類掲載なし。

* 「能ある鷹は爪を隠す」と同義か。

(8) Great spenders are bad lenders.

(金遣いが荒い渋ちん) 和訳未確定。

DAP: 初出 *Soothing of Proverbs* (Breton, 1626)。

ODEP: 同上。

大塚：(金使いの荒い者は人にはなかなか金を貸さない)

(9) All blood is alike ancient.

(太古の昔から血の色は同じ) 和訳未確定。

ODEP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。

<4月のカレンダー>

(10) he Who has not Virtue, is not truly wise.

(徳のない者は賢者にあらず) 辞典類掲載なし。

(11) A Man without ceremony has need of great merit in its place.

(礼儀のない者は別な美点が必要) 和訳未確定。

DAP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

(12) No gains without pains.

(苦勞なくして利益なし)

DAP: 初出 *Golden Aphoroditis* (Grange, 1577)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: “No pains, no gains”の掲載あり。

ODP: “No pains, no gains”の掲載あり。初出 *Works of Young Wit 33* (Breton, 1577)。

* *DAP*と *ODP*で、初出年代が同じであるが、出典が異なる。

大塚：“No pains, no gains”の変化形として“*No gains without pains.*”掲載。

参考として「苦は樂の種」としているが、多少意味が異なる。

<5月のカレンダー>

(13) Had I revenged wrong, I had not worn my skirts so long.

(もし不正行為に復讐していたら、これほど長くスカートをはいていられなかつたろう) 和訳未確定。

大塚：“If I revenged all wrong I had not worn my skirts so long”で掲載。(もし私が不当

行為を受ける毎に復讐したなら、わたしはスカートをこんなに長くはいていることはできなかったであろう（今の生活はしていられなかったらう))

*大塚に、変形として”Had I revenged been of every harm, My coat had never kept me half so warm”が掲載されている。コートが体を暖めてくれるのと同様に、スカートを長くはいているということは、いつも暖かく過ごせる、今のように平安に暮らせるという意味になるのではないか？

(14) Graft good Fruit all, or graft not at all.

(接ぎ木するなら良い果実を) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<6月のカレンダー>

(15) Idleness is the greatest Prodigality.

(怠惰にまさる放蕩なし)

DAP: 初出 *Holy Living* (Taylor, 1650)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

大塚: (怠惰は世界最大の放蕩である) 参考「座して食らえば山もむなし」。

三省堂: 「座して食らえば山もむなし」の項あり。英文なし。

時田: 同上。

(16) Old young and old long.

(老け顔の若者は、若見えの年寄りになる)

既出: 1735年 (28)

<7月のカレンダー>

(17) He who buys had need have 100 Eyes, But one's enough for him that sells the Stuff.

(買うときは100の目で、売るときは1つ目で) 辞典類掲載なし。

(18) There are no fools so troublesome as those that have wit.

(知恵のある愚か者ほど厄介な愚か者はない)

既出: 1741年 (26)

<8月のカレンダー>

(19) Many complain of their Memory, few of their Judgment.

(記憶にはないが判断に間違いなし)

DAP: 掲載のみ。

* どこかの政治家たちの常套句になりそう。

(20) One Man may be more cunning than another, but not more cunning than every body

else.

(誰かより狡猾でも、誰よりも狡猾とは限らない)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』1734年としているが、正しくは1745年。

<9月のカレンダー>

(21) Fools make feasts and wise men eat them.

(愚か者は宴会を開き、賢者はそれを楽しむ。)

既出：1733.5 (17)

* 補足：本連載(1)に記入漏れあり。

*DAP*に初出 *Garden of Pleasure* (Sanford, 1573)との記載あり。

(22) Light-heel'd mothers make leaden-heel'd daughters.

(まめな母親から尻の重い娘)

ODEP: 初出 *The James Carmichaell Collection of Proverbs in Scots* (Carmichaell, 1628)。初出の英文は“A nimble mother makes a lazy daughter”。

大塚：(母親がこまめによく働くと娘は怠け癖が付いて働かない) 参考「親の甘茶が毒になる」。

三省堂：「親の甘茶が毒になる」の項あり。英文なし。

<10月のカレンダー>

(23) The good or ill hap of a good or ill life, Is the good or ill choice of a good or ill wife.

(人生の幸不幸は妻選びにかかっている)

ODEP: 初出 *A Complete Collection of Scottish Proverbs* (Kelly, 1721)。

大塚：“best or worst thing to man, for this life, is good or ill choosing his good or ill wife”の変化形として記載。参考「悪妻は百年の不作」。

三省堂：「悪妻は百年の不作」の項あり。英文として“All ill marriage is a spring of ill fortune” 記載。

時田：「悪妻は六十年の不作」で掲載。

* 日本のことわざには、後の代まで不幸が続くという意味合いがあるが、フランクリンの英文はそうした意味合いよりも、早口言葉のようなリズムが楽しい。

(24) 'Tis easier to prevent bad habits than to break them.

(悪い習慣はやめるより防ぐほうが楽)

DAP: “It is a thousand times easier to correct a new habit than to get rid of an old one.”
の掲載あり。

<11月のカレンダー>

(25) Time conquers all and we must Time obey.

(時は全てのものを征服し、われら時に従う) 辞典類掲載なし。

* *Pastorals* (Alexander Pope, 1704) の一節。

(26) Every Man has Assurance enough to boast of his honesty, few of their Understanding.

(誠実さには自信があるが、理解力には自信がない) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1746)。

* 上記(19)と並べると面白さが増す。

(27) Interest which blinds some People, enlightens others.

(ある人を盲目にする興味が他の人を啓発する) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1746)。

* interest は利益と捉えるべきか？

<12月のカレンダー>

(28) An ounce of wit that is bought, Is worth a pound that is taught.

(1オンスで手に入れた知恵は、1ポンドで習った知恵と同じ価値がある)

DAP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。

ODEP: “Wit once bought is worth twice taught”で掲載。初出 *Conceits* Chamberlain, 1639)

大塚: “Wit bought is better than wit taught”の変形として掲載。

(買い求めた才知は教え授けられた才知にまさる)

(29) He that resolves to mend hereafter, resolves not to mend now.

(後から直すは結局そのまま)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1745)。

5. 1746年版『貧しいリチャードの暦』のことわざ一覧

<読者へのメッセージの内容の要約>

- ・ Poor Richard とはどんな人物かという読者の興味に答えるため、自分と妻の毎日の生活をスケッチ風に描写している。
- ・ ペンシルベニア州で使用されているスペイン銀貨、スペイン金貨、イギリスギニー、ポルトガル金貨モイドアの換算表が付いている。

<1月のカレンダー>

(1) When the Well's dry, we know the Worth of Water.

(井戸枯れてはじめてわかる水の価値)

DAP: “You never miss the water till the well runs dry” で 掲載。初出 *A Complete Collection of Scottish Proverbs* (Kelly, 1721)。

ODEP: “We never knows the worth of water till the well goes dry”で掲載。

ODP: “You never miss the water till the well runs dry”で掲載。初出 *Proverbs in Scots* (Carmichaell, 1628)

大塚: “We never knows the worth of water till the well goes dry”の变化形として掲載。

* *DAP*と *ODP*で初出情報が異なっている。出版年代が新しい *ODP*が正しいと思われる。

(2) He that whines for Glass without G. Take away L and that’s he.

* これは駄洒落ことわざ。Glass から G を取ると lass。lass には女の子という意味があり、lass から l を取ると ass (馬=馬鹿者)という意味になる。

((Glass からあ G を取った)女の子(lass)に泣き言を言う者は、(L を取れば)馬鹿者(ass)だ)

<2月のカレンダー>

(3) Those few Wants answer’d, bring sincere Delights,

(わずかな望みもかなえられれば心から嬉しい) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(4) Fools create themselves new Appetites.

(愚か者はいつも空腹) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(5) A good Wife and Health, Is a Man’s best Wealth.

(良き妻と健康こそが最上の富)

DAP: 初出 *Preparative to Marriage* (Smith, 1591)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

大塚: 「女房は半身上」(家が栄えるか衰えるかは、半分は妻次第) 上記英文の記載あり。

(6) A quarrelsome Man has no good Neighbours.

(喧嘩早い人には良い隣人はいない)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1746)。

<3月のカレンダー>

(7) Wide will wear, But Narrow will tear.

(幅広ものは着心地が良いが、狭いものは裂ける)

DAP: 初出 *Unpublished manuscripts in library of Trinity College* (Harward, 1609)

ODEP: 同上。

大塚：(ゆるやかなのは着られるが窮屈なのは破れる) 参考「大は小を兼ねる」。

* 「大は小を兼ねる」に対応する英語には“A large thing will serve for a small one”,
“Better too big than too small”, “Store (plenty) is no sore”などがあるが、上記の表現の
ほうが具体的で面白い。

(8) Silks and Sattins put out the Kitchen Fire.

(絹やサテンは台所の火を消す)

DAP: 初出 *Outlandish Proverbs* (Herbert, 1640)。『貧しいリチャードの暦』の記載
あり。

ODEP: 同上。

大塚：主人夫妻が着物道楽であるときに召使が用いる表現。(あまり衣服に金を使いす
いと家計が苦しくなり台所の火も消える)

(9) Vice knows she's ugly, so puts on her Mask .

(悪徳は自らの醜さを知り面をかぶる)

DAP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

<4月のカレンダー>

(10) It's the easiest Thing in the World for a Man to deceive himself.

(自分を欺くのは最もたやすい)

DAP: 掲載のみ。

ODEP: “To Deceive oneself is very easy” で掲載。初出 *Outlandish Proverbs*
(Herbert, 1640)

大塚：(自己を欺くことは極めて容易である)

(11) Women and Wine, Game and Deceit, Make the Wealth small And the Wants great.

(女性とワイン、ゲームと欺瞞は富を減らし欲望を増やす)

ODEP: 初出 *Florio Second Flutes* (Florio, 1591)。

大塚：参考「飲む打つ買う」。

* 日英の意味合いに多少の差があるものの、男性の放蕩への戒めの言葉。

<5月のカレンダー>

(12) A Plowman on his Legs is higher than a Gentleman on his Knees.

(立っている農夫のほうがひざまずいている紳士より背が高い)

既出：1734年(28)の変化形。

* 1734年の英文は“An innocent *Plowman* is more worthy than a vicious prince” となっ

ているが、1746年版のほうが視覚的でより面白みが増している。

(13) Virtue and Happiness are Mother and Daughter.

(徳と幸福は母と娘) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

*形式的にはいかにもことわざらしい表現だが掲載無し。幸福は徳から生まれ娘は母から生まれるという意味か？

(14) The generous Mind least regards money, and yet most feels the Want of it.

(気前のよい人はお金に無頓着だが、いつも金欠) 辞典類掲載なし。

(15) For one poor Man there are an hundred indigent. (英文ママ)

(一人の貧乏の周りには百人の貧乏人)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1746)。

<6月のカレンダー>

(16) Don't squander Time; for that's the Stuff Life is made of.

(時間を無駄にするな。時間こそが人生を形作る) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(17) Good Sense is a Thing all need, few have, and none think they want.

(良識はみんな必要だが、持っている人は少なく、誰も欲しいと思っていない)
辞典類掲載なし。

<7月のカレンダー>

(18) the Blacksmith with his white Silk Apron!

(白い絹のエプロンをした鍛冶屋) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

*直前に“*What is proper*”の一文があるので、仕事着にふさわしくない贅沢をすることへの皮肉か？

(19) The Tongue is ever turning to the aching Tooth.

(舌は常に痛む歯のところへ行く)

ODEP: 初出 *The Civile Conversation* (Guazzo, 1586)。

ODP: “The tongue always return to the sore tooth” で掲載。初出同上。

『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

大塚: 「問うに落ちず語るに落ちる」

三省堂: 「問うに落ちず語るに落ちる」の項あり。対応する英語として上記英文が記載されている。

時田: 「問うに落ちず語るに落ちる」の項あり。前半を省略した「語るに落ちる」と

いう形も現代よく使われるとの説明あり。

(20) Want of Care does us more Damage than Want of Knowledge.

(怖いのは、知識不足より注意不足) 辞典類掲載なし。

<8月のカレンダー>

(21) Death can't banish thee out of the Universe.

(死があなたを宇宙から消し去ることはできない) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(22) The Sting of a Reproach, is the Truth of it.

(非難の言葉の痛みは、それが真実だという証拠) 「頂門の一針」

ODEP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)

大塚：非難されて痛いと思うのはそれが当たっている場合である。「頂門の一針」

三省堂：「頂門の一針」の英文として記載されている。

時田：「頂門の一針」の掲載あり。

<9月のカレンダー>

(23) The most exquisite Folly is made of Wisdom spun too fine.

(最も洗練された愚かさは、あまりにも精巧に紡がれた知恵で作られている) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(24) A life of leisure, and a life of laziness, are two things.

(悠悠自適な生活と怠惰な生活は別物)

DAP:初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

<10月のカレンダー>

(25) Mad Kings and mad Bulls, are not to be held by treaties and packthread.

(狂った王や狂った雄牛は、協定やからげ糸では抑えられない)

大塚：“A Mad bull is not to be tied up with a packthread”で掲載。

(26) Changing Countries or Beds, cures neither a bad Manager, nor a Fever.

(国を変えても悪い統治者は治らず、ベッドを変えても熱は下がらない)

辞典類掲載なし。

<11月のカレンダー>

(27) A true great Man will neither trample on a Worm, nor sneak to an Emperor.

(真の偉人は虫を踏みつけず王にへつらわず)

辞典類掲載なし。

- (28) Ni ffyddra llaw dyn, er gwneithr da idd ei hûn. (ウェールズ語)
“Man’s hand alone, without God’s help, cannot do himself good”
(神の助けなしには、自分だけで自分のためになることはできない)
和訳未確定。辞典類掲載なし。

<12月のカレンダー>

- (29) Half-Hospitality opens his Doors and shuts up his Countenance.
(半分の歓待は扉を開くが、顔は見せない)
ODEP: “It is sin against hospitality to open your doors and shut up your countenance”で掲載。初出 *Adv. Learn* (Bacon, 1605)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。
大塚：ODEPの英文の変化形として掲載。

6. 1747年版『貧しいリチャードの暦』のことわざ一覧

<読者へのメッセージの内容の要約>

- ・天文学的な計算や、年が明けても日常的に使われている年鑑に含まれているもののほかに、私は常に道徳的な文章、慎重な格言、賢明なことわざを散りばめており、その多くは非常に少ない言葉に多くの良識を含んでいる。
- ・月の頭の詩も、言うまでもないが、その多くが私自身の作ではない。
- ・自分が生まれながらの詩人ではないことを知っている。他の詩人の良い言葉があるのに、自分の下手な詩を載せる必要はない。

<1月のカレンダー>

- (1) Strive to be the *greatest* Man in your Country, and you may be disappointed;
Strive to be the *best*, and you may succeed:
(一番偉大な者になろうとすると失望するが、最善な者になろうとすれば成功する)
大塚：“It is good striving to be the best”で掲載。
- (2) He may well win the race that runs by himself.
(一人で走れば一等賞) 辞典類掲載なし。

<2月のカレンダー>

- (3) None know the unfortunate, and the fortunate do not know themselves.
(不幸なことを誰も知らず、幸運な者もその幸運を知らない) 和訳未確定。

DAP:初出『貧しいリチャードの暦』(1747)。

<3月のカレンダー>

(4) There's a time to wink as well as to see.

(見るべき時もあれば片目をつぶるべきときもある) 辞典類掲載なし。

(5) There is no Man so bad, but he secretly respects the Good.

(どんな悪人も密かに善行を尊ぶ) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<4月のカレンダー>

該当なし。

<5月のカレンダー>

(6) Courage would fight, but Discretion won't let him.

(勇気があれば戦うが、慎重さがそうさせない) 辞典類掲載なし。

<6月のカレンダー>

(7) We are not so sensible of the greatest Health as of the least Sickness.

(健康なことよりちょっとした病気が気になる) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(8) A good Example is the best sermon.

(範例は最良の教え)

DAP: 初出 *Gnomologia* (Fuller, 1732)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

大塚：“Examples teach more than precepts”の変化形として掲載。

<7月のカレンダー>

(9) A Father's a Treasure; a Brother's a Comfort; a Friend is both.

(父は宝、兄弟は慰め、友は両方)

DAP: 掲載のみ。

(10) Despair ruins some, Presumption many.

(絶望で破滅する人もいるが、思い込みで多くの人が破滅する) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<8月のカレンダー>

(11) He that won't be counsell'd, can't be help'd.

(助言を受けないものは助けようがない)

DAP: 初出 *Adagia in Latin and English* (Robinson, 1621) 『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 初出同上。『貧しいリチャードの暦』1747の記載あり。

(12) *Craft* must be at charge for clothes, but *Truth* can go naked.

(悪知恵は着飾るが、真実は裸で行く)

ODEP: “*Craft* must have clothes, but truth loves to go naked” で掲載。

初出 *Politeuphuia* (1597)

大塚：参考「ありのままは正直の看板」

(13) Write Injuries in Dust, Benefits in Marble.

(損害は塵に、利益は大理石に書きなさい) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』。

ODEP: “Injuries are written in brass” の変化形として掲載。

大塚：*ODEP*の英文掲載。

<9月のカレンダー>

(14) What is Serving God? 'Tis doing Good to Man.

(神に仕えるとは善行を為すこと) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(15) What maintains one Vice would bring up two Children.

(道楽を一つやめれば子供二人を養える)

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1747)。

ODEP: 同上。

大塚：参考「釣り好きな百姓は子を飢えさす」

<10月のカレンダー>

(16) Better is a little with content than much with contention.

(面倒なものをたくさんより、少しの満足したもののほうが良い)

DAP: 掲載のみ

大塚：“It is better to enjoy a little with quietness than to possess much with troubles” の変化形として掲載。

(17) A Slip of the Foot you may soon recover:

But a Slip of the Tongue you may never get over.

(足を滑らせても、口を滑らすな)

既出：1734年（11）

(18) What signifies your Patience, if you can't find it when you want it.

(欲しいときに見つからなければ忍耐にどんな意味があらう) 和訳未確定。辞典類掲載なし。

<11月のカレンダー>

(19) *Time enough, always proves little enough.*

(時間はたっぷり、実は大慌て)

DAP: 掲載のみ。

(20) It is wise not to seek a Secret, and Honest not to reveal it.

(秘密は探らず漏らさず) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1747)。

(21) A Mob's a Monster: Heads enough, but no Brains.

(暴徒はモンスター。頭はたくさん、脳ミソは無し)

DAP: "The mob has many heads but no brains" で掲載。初出 *Common Place of Italian Proverbs* (Torriano, 1666)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 同上。

大塚: DAPと同様の英文。参考「烏合の衆」。

三省堂: 「烏合の衆」の掲載あり。出典『後漢書』。英文同上。

(22) The Devil sweetens Poison with Honey.

(悪魔は蜜で毒を甘くする) 辞典類掲載なし。

<12月のカレンダー>

(23) He that cannot bear with other People's Passions, cannot govern his own.

(他人の情熱を耐えられなければ、自分の情熱を抑えられない) 和訳未確定。

DAP: 初出『貧しいリチャードの暦』(1747)。

(24) He that by the Plow would thrive, Himself must either hold or drive.

(鋤で繁栄したければ、自ら鋤を持ち馬を引け) 和訳未確定。

DAP: 初出 *English Proverbs* (Ray, 1678)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP: 同上。尚、plowの綴りはploughとなっている。Franklin 1758。<誤>

大塚：（犁（農業）によって繁栄しようと思う者は自分自らが（犁を）持つか（馬）を使うかしなければならない）参考「人使うより胴使え」。

7. 15年分の『貧しいリチャードの暦』のことわざ分析から見えるもの

(1) 数字から見えるもの

前稿でまとめた『貧しいリチャードの暦』10年間（1733～1742）のことわざ抽出の結果に、1743年度から1747年まで5年間のことわざの抽出結果を加え、表1とした。

表1：英語辞典のことわざ掲載数 1733～1747

年	ことわざ 総数 (重複数)	<i>DAP</i> (記載有)*	<i>ODEP</i> (記載有)*	<i>ODP</i> (記載有)*	リチャード 初出**	その他 初出***	辞典類 掲載無
1733	56(1)	30(9)	10(3)	4(1)	10	13	16
1734	36	26(18)	9(5)	5(3)	11	12	9
1735	31	23(16)	8(3)	3(1)	12	10	5
1736	44	27(21)	14(8)	4(3)	6	16	9
1737	31(1)	17(14)	9(6)	1(1)	6	11	6
小計1	197(2)	133(78)	50(22)	17(9)	45	62	44
1738	29(1)	17(8)	6(1)	0	6	8	10
1739	32(1)	17(8)	7(3)	3(1)	2	8	12
1740	35	12(8)	5(1)	2(1)	3	6	21
1741	29(1)	11(5)	3(2)	0	6	3	14
1742	32(1)	21(14)	16(2)	6	3	13	6
小計2	157(4)	78(43)	37(9)	11(2)⁵	20	38	63
1743	27	6(4)	5(1)	3(2)	2	3	19
1744	33(3)	17(10)	11(4)	3(3)	6	8	11
1745	29(3)	16(11)	8(1)	2	5	11	7

1746	29(1)	9(6)	9(2)	2(1)	2	11	13
1747	24(1)	12(9)	6(4)	0	5	5	9
小計 3	142(8)	60(40)	39(13)	10(6)	20	38	59
小計 1,2,3 合計	496(14)	271(161)	126(41)	38(17)	85	138	165

* 該当辞典中に対象のことわざが掲載されている総件数で、()内は『貧しいリチャードの暦』についての記載があるものの数を示す。

** 辞典類のいずれかに初出が『貧しいリチャードの暦』と記載されているものの数を示す。

*** 初出が『貧しいリチャードの暦』以外で記載されているものの数を示す。

上記の表からまずことわざの総数そのものを見ると 15 年間で 496 のことわざが確認できる。しかもそのうち重複しているものはわずか 14 で、フランクリンが毎年 30 以上の異なることわざを継続して提示してきたことになり、圧倒的な量と内容の多様性に驚かされる。

しかし 15 年間の総数や辞典類への掲載数の増減に着目すると、明らかな変化が見て取れる。第一に総数の減少傾向である。大幅な減少ではないものの、例外的に多い初年度を除いても、1734 年の 36 から、1747 年の 24 へと増減を繰り返しながらも少しずつ減少していることは否めない。さらに、総数の現象の幅より大きく減少しているのが辞典類への掲載数で、例えば当初総数の 7 割程度が *DAP* に掲載されていたが、1743 年以降では 4 割程度に減少している。そしてその裏返しとして、当然ながら辞典類への掲載無しの増加傾向が続いている。

こうした変化について筆者は連載中の拙論 (3) において、「辞典類掲載無しの急増や初出情報の減少は、既存の良く知られた表現を巧みに利用しながらも、フランクリンが独自のことわざを生み出そうと試みていた証なのかもしれない。」⁶ と述べた。しかし今回 15 年間を通して見ると、オリジナリティーの追求というより、後年になるにしたがってフランクリンのことわざを生み出す力や、それぞれのことわざが持つ後世に残るような(ことわざ辞典類に載るような)普遍的な力が弱くなっていったのではないかという気もする。

特に 1743 年版を見ると、ことわざ総数が 27 と少ないうえ、その内 9 個が英語圏以外のことわざの借用であり、さらに *DAP* への掲載も 6 と激減していて、結果として後世に残っていることわざの掲載数が確かに減少している。さらに 1747 年 4 月の暦には、15 年間で初めてことわざが掲載されていない。前述のように『貧しいリチャードの暦』は 1748 年

以降大きく体裁を変えるが、フランクリン自身がこうした15年間の変化を認識していたことが変更への一因になったのかもしれない。

(2) 数字から見えないもの

数字からみると多少力の弱まりが感じられたものの、『貧しいリチャードの暦』には魅力あることわざが溢れている。前稿に引き続き、フランクリンのリメイク手法と独自のことわざクの特徴をまとめる。

① リメイク名人として

本論で取り上げた1743年から1747年までのことわざのうち『貧しいリチャードの暦』以外の初出情報が載っているものは38例ある。そのうちフランクリンがリメイクしたと思われるものを対象とし、前稿同様にリメイクの特徴を分類し具体例を引用する。数字は、ことわざの発行年と本論における番号を、括弧内は基になったことわざを示す。

<余分を省いてバランスを良くする> : 2例

・ 1744-18 Light Gains heavy Purses.

(Light gains make a heavy purse.)

・ 1745-24 'Tis easier to prevent bad habits than to break them.

(It is a thousand times easier to correct a new habit than to get rid of an old one.)

<言葉や数字を加えて具体化・映像化する> : 5例

・ 1744-7 a spoonful of honey will catch more flies than Gallon of Vinegar.

(honey catches more flies than Vinegar.)

・ 1745-22 Light-heel'd mothers make leaden-heel'd daughters.

(A nimble mother makes a lazy daughter.)

・ 1745-28 An ounce of wit that is bought, Is worth a pound that is taught.

(Wit once bought is worth twice taught.)

・ 1746-12 A Plowman on his Legs is higher than a Gentleman on his Knees.

(An innocent *Plowman* is more worthy than a vicious prince.)

*これは過去の自分の言葉をリメイクしたものである。

・ 1746-29 Half-Hospitality opens his Doors and shuts up his Countenance.

(It is sin against hospitality to open your doors and shut up your countenance.)

<3つ並べて説得力を増す> : 2例

- ・ 1744-10 Industry, Perseverance, and Frugality, make Fortune yield.
(Industry is fortune's right hand, and frugality her left.)
- ・ 1739-27 Proclaim not all thou knowest, all thou owest, all thou hast, nor all thou canst.
(Don't tell all you know nor all you can.)

<同じ言葉の繰り返しでリズムよく> : 1例

- ・ 1744-24 He who multiplies Riches multiplies Cares.
(Riches and cares are inseparable.)

対象となることわざの数が少ないため、効果的にリメイクされたことわざも10例に過ぎない。また前稿で効果的だと注目した anti-proverb(反意ことわざ)も残念ながら確認できなかった。しかし声に出して読んでみると、リメイクされたことわざのリズムの良さや具体的なイメージの豊さは明らかで、風刺のきいた文言もクスッと笑いを誘う。

② ことわざクリエイターとして

本論で扱う142のことわざのうち辞典類掲載のないものが58例あり総数の4割以上を占めている。そこで前項と同様に『貧しいリチャードの暦』が初出である20例も含めて、フランクリン独自の表現が生きている代表的な例を引用する。(※については後述する)

<シンプルが一番> : 9例

- ・ 1743-3 In prosperous fortunes be modest and wise. (幸運な時こそ謙虚で賢明であれ)
- ・ 1743-9 * One Slander fifty will beget. (一つの中傷が五十の中傷を生む)
- ・ 1743-12 * Content and Riches seldom meet together. (富と中身は伴わない)
- ・ 1744-6 Tart Words make no Friends: (辛辣な言葉では友はできない)
- ・ 1744-9 * Dine with little, sup with less: (晚餐は控えめに、夜食はもっと控えめに)
- ・ 1744-20 As Pride increases, Fortune declines. (誇りが増せば幸運が逃げる)
- ・ 1744-29 A soft Tongue may strike hard. (優しい言葉がときに心に突き刺さる)
- ・ 1747-19 * *Time enough*, always proves *little enough*. (時間はたっぷり、実は大慌て)

<3つ並べる> : 2例

- ・ 1745-17 Good Sense is a Thing all need, few have, and none think they want.
(良識はみんな必要だが、持っている人は少なく、誰も欲しいと思っていない)

- ・ 1747-9 A Father's a Treasure; a Brother's a Comfort; a Friend is both.
(父は宝、兄弟は慰め、友は両方)

< 2項並列 (AもBも、AではなくてBなど) > : 6例

- ・ 1743-3 The greatest may fall, and the lowest may rise:
(最も偉大な者が倒れ、最も弱い者が立ち上がることもある)
- ・ 1743-23 If you'd be wealthy, think of saving, more than of getting.
(裕福になりたいなら、儲けることより貯めること)
- ・ 1746-20 Want of Care does us more Damage than Want of Knowledge.
(怖いのは知識不足より注意不足)
- ・ 1746-26 * Changing Countries or Beds, cures neither a bad Manager, nor a Fever.
(国を変えても悪い統治者は治らず、ベッドを変えても熱は下がらない)
- ・ 1747-4 * There's a time to wink as well as to see.
(見るべき時もあれば片目をつぶるべき時もある)
- ・ 1747-6 Courage would fight, but Discretion won't let him.
(勇気があれば戦うが、慎重さがそうさせない)

< 具体化・映像化する > : 8例

- ・ 1743-13 The meanest Bee hath, and will use, a sting.
(一番卑しい蜂が針を持ちそれを使う)
- ・ 1744-1 He that drinks his Cyder alone, let him catch his Horse alone.
(一人でサイダーを飲む者は、一人で馬を捕えねばならぬ)
- ・ 1744-16 Sloth (like Rust) consumes faster than Labour wears.
(怠惰は錆の如く、労働より早く人を消耗させる)
- ・ 1745-17 * He who buys had need have 100 Eyes, But one's enough for him that sells the Stuff. (買うときは100の目で、売るときは1つ目で)
- ・ 1746-18 the Blacksmith with his white Silk Apron! (白い絹のエプロンをした鍛冶屋)
- ・ 1747-2 * He may well win the race that runs by himself. (一人で走れば一等賞)
- ・ 1747-15 * What maintains one Vice would bring up two Children.
(悪習を一つやめれば子供二人を養える)
- ・ 1747-22 * The Devil sweetens Poison with Honey. (悪魔は蜜で毒を甘くする)

ODP 第6版(2015)の編集者 Jennifer Speake は Editor's Preface において、「現在では主

に骨董品的な興味の対象でしかない」ものや「21世紀の感性から違和感を覚えるもの」は収録しなかったと編集方針を述べている。⁷ その観点からすると、『貧しいリチャードの暦』のことわざの多くは表現が古めかしく、そのことわざを「だれの怒りを買うこともなく発話できるような現代の場面を想定する」ことができないことも確かである。⁸ しかしその一方で、上記の特に*で示したことわざには、聴いた者（読んだ者）に自分のことを言われているような居心地の悪さを感じさせ、クスクス笑いを呼ぶ親近感がある。また同時に、度重なる政治家の疑惑、不穏な国際情勢、お金とIT万能の現代の世相に穏やかに笑いの一矢を放つ時代を超えた風刺力があるようにも思える。

8. 補足：月ごとの「冒頭の詩」の出典

本来であればここで論を終わりにすべきだが、「はじめに」で述べたように1747年版は『貧しいリチャードの暦』全体の中で特異な意味を持つ。それは毎年の暦の冒頭部である「読者へのメッセージ」の内容である。1746年までは暦の人気ぶりや農産物の出来具合、惑星の動きや日頃の妻とのやり取りなど日常を語っていたのに対し、1747年では文章の編集方針を詳細に語っている。長くなるが引用する。（和訳、筆者）

私は絶えず道徳的な文句、賢明な格言、そして賢い言葉を挟み込んできました。その多くは非常に短い言葉の中に多くの良識を含んでいるため、若い人々の記憶に強い印象を残しやすく、それによって彼らは生涯にわたって利益を受けることができます。・・・暦と暦の作成者が忘れ去られてしまっても。たまたま冗談を1つ、2つ挟むことがあります。本当にたまたまですが、そのような冗談にも役割があるかもしれないと考えています。なぜなら、そのような冗談のために気持ちが軽やかになって他の部分を読むかもしれず、その結果、より重要な部分に目が行くかもしれないからです。

月の冒頭の詩にも、同じ方向性を持たせています。言うまでもなくそれらのかなりの部分が自作のものではありません・・・私は生まれながらの詩人ではなく、多くの素晴らしい詩があるのに、私が作った下手な詩をお見せする必要などないでしょうから。

1746年までの「読者へのメッセージ」は、フランクリンが生み出したキャラクター、暦の製作者のリチャードの言葉であったが、1747年版はリチャードを生んだフランクリン本人の言葉になっている。自分の発したことわざが自分亡き後も生き続けるというのは、いかにも自信に溢れたフランクリンらしい言葉ではあるが、一方「冒頭の詩」の多くが他者からの借用であるという発言には、当時の読者は大いに驚かされ、「では誰の詩なのか」と興味を持ったに違いない。本連載の原本である *The Papers of Benjamin Franklin* の編者 (Yale University Library) は、この言を受けてか、1748年以降月の「冒頭の詩」の出典を

注として明記している。しかし 1747 年までの「冒頭の詩」については、*The Papers of Benjamin Franklin* においても、また現段階で確認出来た他の文献においても全く触れられていない。そこで本論の補足として、初年度の 1733 年まで遡り、現段階ではっきりした出典情報をまとめた表を掲載する。

表 2 : 「冒頭の詩」の出典

年	月	作者	作品名 (詩の題名)	年代
1733	5	Samuel Rowlands	<i>Humors ordinarie where a man may be verie merrie, and exceeding vvell vsed for his sixe-pence</i>	1605
1736	読者*	Alexander Pope	<i>An Essay on Man: Epistle I</i>	1733
	3	Alexander Pope	<i>An Essay on Man: Epistle II</i>	1733
	6	John Taylor	<i>A Iuniper Lecture</i>	1639
1737	2		<i>A collection of epigrams. to which is Prefix'd a critical dissertation on This species of poetry I</i> (以下、 <i>A collection of epigrams</i>) ⁹	1727
	8	Matthew Prior	<i>A Reasonable Affliction</i>	1718
1738	読者,4,8	Matthew Prior	<i>The Old Gentry</i>	1700?
	7		<i>A collection of epigrams I</i>	1727
1739	6	Jonahan Swift	<i>The Dean's Complaint, Translated and Answered</i>	1734
	7, 9		<i>A collection of epigrams I</i>	1727
1740	3		<i>A collection of epigrams II</i>	1737
	6	John Gay	<i>The Ravens, the Sexton, and the Earth-worm</i>	1727
	8	John Gay	<i>The Squire and his Cur</i>	1727
1741	4, 5	Jonahan Swift	<i>Strephon and Chloe</i>	1734
	7, 8, 9, 10	John Gay	<i>The Man, the Cat, the Dog, and the Fly</i>	1727
1742	4, 9	Ambrose Philips	<i>From Holland to a Friend in England in the Year 1703</i>	1703
1743	2	Matthew Prior	<i>Democritus and Heraclitus</i>	1718

		John Gay	<i>The Peacock, the Turkey, and Goose</i>	1728
	5	Alexander Pope	<i>Imitation of Horace</i>	1737
	7	Garrick, David	<i>An EPIGRAM upon a young Gentleman</i>	?
	8		<i>A collection of epigrams II</i>	1737
1744	読者	Alexander Pope	<i>Ode on Solitude</i>	1700
	1, 2, 3, 5		<i>A collection of epigrams II</i>	1737
	4	James Thomson	<i>SUMMER</i>	1735
	6	Alexander Pope	<i>An Essay on Criticism: Part 2</i>	1711
	7	James Thomson	<i>SUMMER</i>	1735
	8, 9	Alexander Pope	<i>January And May. From Chaucer.</i>	?
	10	Alexander Pope	<i>An Essay on Criticism: Part 2</i>	1711
1745	読者	Alexander Pope	<i>Essay on Man</i>	1734
	1	Alexander Pope	<i>An Epistle to the Right Honourable Richard, Lord Viscount Cobham</i>	1733
	2, 3	Alexander Pope	<i>Essay on Man</i>	1734
	4, 5, 7	John Armstrong	<i>The Art Of Preserving Health. Book IV</i>	1744
	6	Alexander Pope	<i>An Epistle to Mr. Pope from Rome</i>	1730
	8, 9, 10	Alexander Pope	<i>Essay on Man</i>	1734
	11	Alexander Pope	<i>Winter, the Fourth Pastoral, or Daphne</i>	?
1746	1	Edward Young	<i>Satire IV. To the Right Honourable Sir Spencer Compton</i>	1727
	2,3,4,5,6, 8,9,10,12	Edward Young	<i>Satire V. On Women.</i>	1727
	7	Edward Young	<i>A Paraphrase on Part of the Book of Job.</i>	1719
1747	1	Edward Young	<i>To the Right Honourable Mr. Dodington</i>	1728
	2	Edward Young	<i>The Universal Passion. Satire I</i>	1725
	3, 4	Edward Young	<i>The Force of Religion; or, Vanquished Love</i>	1735
	5, 6, 7, 8	Edward Young	<i>Satire V. On Women.</i>	1727

	10	Edward Young	<i>Satire VII. To the Right Honourable Sir Robert Wapole</i>	1728
	11	Edward Young	<i>To his Grace the Duke of Dorset</i>	1725
	12	Edward Young	<i>Satire V. On Women.</i>	1727

*「読者」とは<読者へのメッセージ>の略であり、そのメッセージの中にも借用が確認できる。

一見して借用個所の多さに目を見張る。初年度 1733 年から 1735 年あたりまではほとんどなかった借用が徐々に増加し、1744 年以降は 11 か月分、つまり 1 年間の毎月の「冒頭の詩」のほとんどが借りものという状態になる。1747 年を例に、単純に暦の部分（惑星の動きや裁判情報、読者へのメッセージを除く）の単語数を見てみると、全 1174 語のうち 1067 語が借用部分で、フランクリン自身の言葉はわずか 307 語という結果である。この表は本論までに確認できたもののみを掲載しているので、今後の分析によりさらに借用数が増える可能性がある。また 1720 年代、30 年代のポープ（Alexander Pope, 1688~1744）やヤング(Edward Young, 1683~1765)からの借用が目立って多いことも特記したい。

5. おわりに

本連載を通して 1733 年から 15 年分のことわざ 496 例を網羅したことになる。“Constant Dropping wears away Stones”（点滴石を穿つ）とよく言われるが、¹⁰ まさに『貧しいリチャードの暦』の分析作業は大きなことわざの塊を少しずつ崩している感がある。フランクリンが暦の空白部分をことわざで埋めたと言ったのは後年の自伝の中であり、当時の暦の読者はフランクリンの意図など構わず、年平均 30 以上の色とりどりのことわざの群れを楽しく読み、また翌年の群れを楽しみにしていたはずである。そして筆者もその一人である。

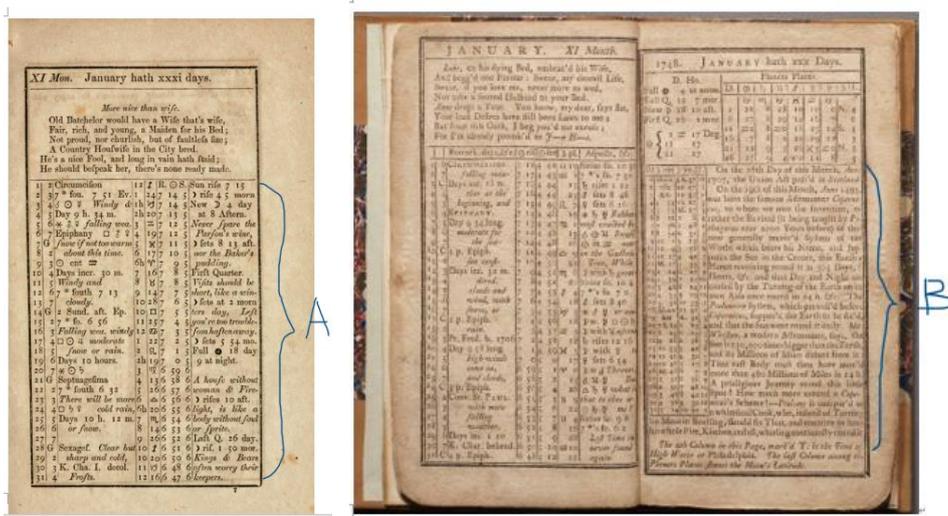
もちろんフランクリンが生み出した独自のことわざの多くが現在では見聞きしないものになっていることも事実であるが、辞典類に掲載されていないものも含めて『貧しいリチャードの暦』のことわざには色あせない魅力があることも確認できた。「暦の作者が消えてもその言葉は残ると」言ったフランクリンの思う壺なのかもしれない。

一方で暦の形式は 1748 年以降大きく変化し、毎月の「冒頭の詩」のかなりな部分が当時活躍した詩人らの作品からの借用であることも明らかになった。こうしたフランクリンの宣言や詩の借用の意図は何か、それは『貧しいリチャードの暦』全体にどのように反映されていくのか、またことわざの掲載にどのように影響するのかなどについては今後詳細な考察が必要である。崩さなければならぬ塊がもう一つ増えたようだが、18 世紀の読者になったつもりで楽しみながら次の年の暦を開こうと思う。

[注]

1. 『貧しいリチャードの暦』の形式やことわざの特徴の詳細は、拙論「ベンジャミン・フランクリンの『貧しいリチャードの暦』のことわざめぐり(1)」、同「(2)」、及び同「3」(日本ことわざ文化学会 ことわざ研究/談話室 #15、#19、#22) 参照。本論では、ことわざ的なものも含めて取り上げ、広義のことわざとして扱う。

2.



1733年1月

1748年1月

1733年と1748年の1月の暦の説明部分A, Bを比較すると、Aは短いとその多くがことわざで、Bは分量が多いがほとんどが過去の出来事の説明になっていることがわかる。結果としてページ数は増えているが、歴史的説明が多くを占め、ことわざの数は少なくなっている。続稿で詳細な分析をしたい。

3. *The Papers of Benjamin Franklin, Vol.3.*

本来なら他者の文章(詩)を利用する場合には引用として出典情報を記すべきであるが、フランクリンはどれが引用部分で誰からのものか一切言及していない。そこで本論では「引用」ではなく「借用」とする。

4. ODEPでは『貧しいリチャードの暦』からの出典情報のほとんどが1758年となっているが、これは『貧しいリチャードの暦』をまとめて1758年に出版された*The Way to Wealth* 『富に至る道』を基にしたためであると思われる。初出情報としては正しくないもので、<誤>と追記する。

5. 拙論「ベンジャミン・フランクリンの『貧しいリチャードの暦』のことわざめぐり(3)」に掲載した表中 ODP掲載数字に誤りがあったので訂正した。

1739: 1(1) → 3(1), 1740: 1(1) → 2(1), 小計: 8(2) → 11(2)

(上記 Speake, J. and John Simpson, eds. *Oxford Dictionary of Proverbs 6th Edition* の翻訳)
三省堂編『新明解 故事ことわざ辞典』、2016.

時田昌瑞『岩波ことわざ辞典』岩波書店、2016.

松本真一、西川正身訳 『フランクリン自伝』岩波書店、2014.

[インターネットサイト]

- The Digital Franklin Papers: [The Papers of Benjamin Franklin \(franklinpapers.org\)](http://franklinpapers.org)
- [Rare Book Room](#)
- Early English Books: [Early English Books Online \(umich.edu\)](http://umich.edu)
- *Garden of Pleasure*: <http://name.umd.umich.edu/A02336.0001.001>
- [Outlandish Proverbs \(1640\) \(horntip.com\)](http://horntip.com)
- [Internet Archive: Digital Library of Free & Borrowable Books, Movies, Music & Wayback Machine](#)
- Poetry Foundation: [Poetry Foundation](http://poetryfoundation.org)